

## 弱含みの横ばい状態

しがぎん経済文化センター(産業・市場調査部)



太郎坊山・箕作山／東近江市

### 県内景気の動向

**現状** 県内製造業の生産活動を鉱工業生産指数で見ると、原指数の前年比は4か月連続の上昇となっているものの、季節調整指数の前月比は3か月ぶりに低下した。また、季節調整指数の3か月移動平均値はプラスとなったものの、水準は7か月連続の低水準にとどまり、弱含みの状態が続いている。

需要面では、大型店の中のドラッグストアの販売額は好調に推移し、乗用車の新車登録台数は3か月連続で前年を上回った。また、公共工事の請負件数は2か月ぶりのマイナスだが、金額は6か月ぶりの大幅プラスとなった。一方、百貨店・スーパー販売額は家電機器がプラスとなったものの、ウエートの高い食料品が久々のマイナスで、他の品目も伸び悩んだため、全店ベースでは2か月連続、既存店ベースでは6か月ぶりのマイナスとなった。また、軽乗用車の販売台数は低水準かつ9か月連続の大幅マイナスとなっている。民間設備投資の指標である民間非居住用建築物着工床面積は3業用とも低水準かつ大幅のマイナスとなり、全体では2か月ぶりの大幅マイナス。新設住宅着工戸数は持家と分譲住宅がプラスとなったものの、貸家が3か月連続の大幅マイナスとなったため、全体では2か月ぶりに前年を下回った。

このような中、雇用情勢をみると、新規求人倍率は前月に比べ低下、有効求人倍率も前月と同レベルにとどまった。

これらの状況をまとめると、製造業の生産

活動は弱含みの状態が続く、需要面では堅調な動きは一部にとどまり、全体に力強さに欠けた状態にある。したがって県内景気の現状は、緩やかな回復基調にあるものの、弱含みの横ばい状態にあると考えられる。

**今後の動向** 県内製造業の生産活動については、国内需要の伸び悩みに加え、新興国の景気低迷の影響から海外需要も弱含みのため、全体に横ばいの展開が続くものとみられる。また、需要面では、一部で堅調な動きがみられるものの、家計収入の伸び悩みや景気の先行き不透明感などから、全体的に力強さに欠けた状態が続くと思われる。したがって今後の県内景気は、緩やかな回復基調が続くものの、足踏みの状態で推移するものと考えられる。

### 京滋の景気動向

京都府・滋賀県の景気は、新興国経済減速の影響などから輸出・生産面に鈍さがみられるものの、基調としては回復を続けている。

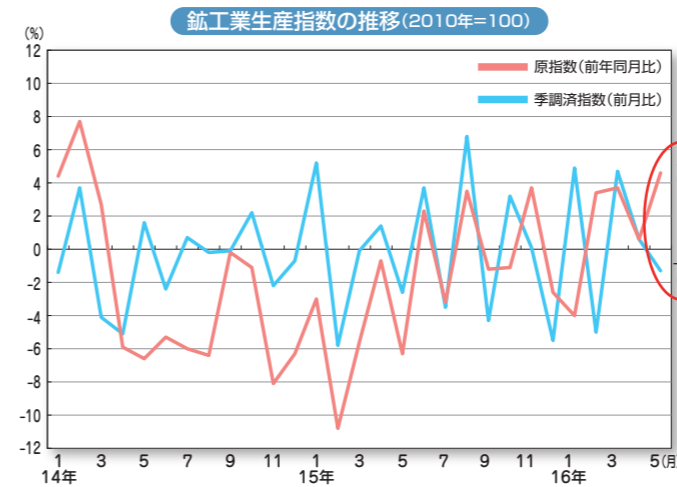
個人消費は、一部に弱めの動きがみられるものの、全体としては底堅く推移している。設備投資は、緩やかに増加している。住宅投資は、持ち直しつつある。公共投資は、減少している。生産は、増勢が鈍化しており、輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。労働需給は引き続き改善しており、雇用者所得も緩やかに増加している。

【日本銀行京都支店：「管内金融経済概況」(8月8日発表)より】

### 「鉱工業生産指数」の前月比は3か月ぶりに低下

2016年5月の県内製造業の生産状況を見ると、鉱工業生産指数(2010年=100)の「原指数」は95.8、前年同月比+4.6%で4か月連続の上昇となっているものの、「季節調整指数」は98.9、前月比-1.3%で3か月ぶりに低下した。季節調整指数の3か月移動平均値(4月)は99.6、前月比+1.3%でプラスとなったものの、水準は7か月連続で100以下の低水準で推移し、弱含みの状態が続いている。業種別(中分類)に季節調整指数の水準をみると、「化学」や「食料品」「その他」などは高水準となったものの、「鉄鋼」や「窯業・土石製品」などは低水準。また、前月と比べると、上昇したのは「はん用・生産用・業務用機械」と「プラスチック製品」「その他」の3業種のみで、他はすべて低下し、「鉄鋼」や「金属製品」「電気機械」などが大きく低下した。

生産状況の先行きをあらわす「出荷指数」と「在庫指数(製品在庫)」を前年比で見ると、出荷は2か月ぶりに上昇したものの(原指数92.1、前年同月比+0.9%)、在庫が11か月ぶりの増加となった(同122.1、同+1.5%)。今後の動向が注目される。



### 「百貨店・スーパー販売額」(全店ベース)は2か月連続のマイナス

6月の「消費者物価指数(生鮮食品を除く総合/大津市/2010年=100)」は103.4で、前年同月比-0.4%、前月比0.0%となり、前月比では横ばいだが、前年比では前月に続きマイナスとなっている。「可処分所得(大津市・勤労者世帯)」は2か月連続で前年を下回り(前年同月比-13.8%)、「家計消費支出(同)」も2か月連続のマイナスとなった(同-10.6%)。なお、「毎月勤労統計調査」における4月の「名目賃金指数(現金給与総額、事業所規模30人以上、2010年=100)」は91.6、同+4.3%で、3か月連続のプラスとなっている。

このような所得・消費環境のなか、5月の「百貨店・スーパー販売額(全店ベース=店舗調整前、対象店舗数は95店舗)」は21,803百万円、前年比-2.3%と、2か月連続のマイナスとなった。品目別にみると、家電機器は3か月ぶりのプラス(同+2.0%)となったものの、ウエートの高い食料品が36か月ぶりのマイナ

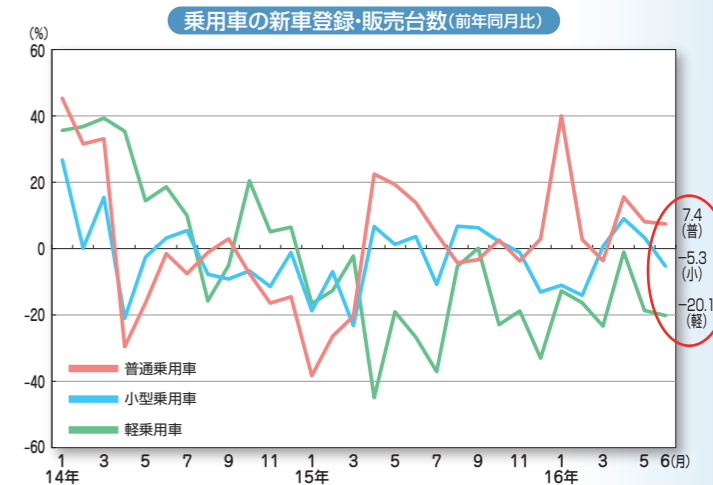
ス(同-1.1%)、衣料品は7か月連続(同-7.2%)、家庭用品(同-14.6%)と身の回り品(同-5.9%)は2か月連続のそれぞれマイナスとなった。また、「既存店ベース(=店舗調整後)」の売上高は6か月ぶりのマイナスとなった(同-1.6%)。

また、「家電大型専門店・ドラッグストア・ホームセンター販売額(全店ベース=店舗調整前)」によると、5月の「ドラッグストア」(165店舗)は4,998百万円、前年同月比+5.9%で14か月連続のプラスとなり、好調に推移している。一方、「家電大型専門店」(38店舗)は2,850百万円、同-5.7%、「ホームセンター」(63店舗)も3,901百万円、同-6.0%で、ともに2か月ぶりのマイナスとなり、伸び悩んだ。



### 「乗用車新車登録台数」は3か月連続のプラス

6月の「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」をみると、「小型乗用車(5ナンバー車)」が4か月ぶりのマイナスとなったものの(1,371台、前年同月比-5.3%)、「普通乗用車(3ナンバー車)」が3か月連続で前年を上回っているため(1,775台、同+7.4%)、2車種合計では3か月連続のプラスとなった(3,146台、同+1.5%)。一方、「軽乗用車」は昨年4月からの増税の影響に燃費改ざんの影響が加わり、低水準かつ9か月連続の大幅マイナスとなっている(1,622台、同-20.1%)。



### 県内景気 天気図

現在の景気 生産活動



個人消費 民間設備投資



住宅投資 公共投資



雇用情勢 3か月後の景気



凡例



前月比

